

《基本理念》 子どもから高齢者まで、健やかな暮らしを生涯支える村づくり

基本目標1【地域を担う人づくり】 P22

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 地域福祉の意識醸成	健康福祉課	1. 地域福祉に関する情報発信や周知活動 ホームページや村内広報、SNS等を積極的に活用し、地域福祉に関する情報発信・周知に努めます。	【福祉】 ・4月広報への折り込みにより、地域福祉計画の概要版を全戸配布するとともに、村ホームページへの掲載も実施した。	【福祉】 ・運営委員会での評価後、令和5年4月広報及び村ホームページにて取組内容の周知を行う。また、年度末に取組状況について運営委員会に諮り、評価を行う。	B 取組計画→周知→取組実行→取組評価…のサイクルに沿った計画の推進は行っているが、広報誌以外の手段による情報発信については方法の検討が必要だと考える。	B ・地域福祉の概念は範囲が広く、わかりやすく伝えるのはとても難しいと考える。 ・委員の間でも、せっかくいろんな職場から委員になっているので、ぜひ普段の仕事に障害者や高齢者、認知症当事者にとって使いやすいだろうか、といった目線を取り入れて、想像しながら仕事をしないといけない。 ・この委員会の内容も、ホームページやSNS等で見る人は良いが、内容を分かりやすくまとめた周知には課題がある。
	健康福祉課教育委員会総務課	2. 福祉教育・人権教育の推進 福祉意識・人権意識の醸成を図るため、地域住民の学ぶ機会として福祉や人権をテーマとした講演会や体験学習、イベント等を開催します。また、学校教育の中で福祉に関する授業を行うなど、次代を担う子どもたちへの意識づくりにも取り組みます。	【福祉】 ・職員向け手話研修を2回実施した他、全村民対象のパスポート体験会も実施した。また、認知症・介護啓発事業として映画上映会を3月に実施予定。 【教委】 ・住民向け人権研修会(多様な性)を実施。38名の参加。 【総務】 ・花を植え大切に育てていくことを通して、家族・友達に対する思いやりや優しい心を持ってもらうことを目的として「人権花運動」を魚梁瀬小中学生に実施した。花を植えるだけにならないよう人権について又人権擁護委員の活動についても話をを行った。結果、より人権を身近に感じてもらうことが出来た。	【福祉】 ・福祉教育として、住民向け終活セミナー及び認知症体験会を実施予定。将来受ける医療や介護について、家族との話し合いの機会を持つことの意義や重要性について考える機会を持ってもらいたいと考えている。 【教委】 ・人権に関する映画上映・図書の購入、人権花運動の村内企業との連携、「防災と人権」研修会の実施を予定。 【総務】 ・引き続き「人権花運動」を実施すると共に令和5年度は講師を呼んで役場職員・村民の皆さんの人権への理解を深めていただくよう考えている。	A 住民が「わが事」として福祉について考えるきっかけ作りに向け、魅力的かつ興味を持てるテーマ選定、学習機会の確保に努めた。	A ・住民が福祉を「わが事」として考えられているか、の部分に違和感がある。委員として、農福連携といったことに仕事で関わるようになって福祉との関わりを意識するようになった。取組を行っているが、住民向けの周知はまだまだ少ないと感じている。映画やセミナーといった聞くだけ、観るだけのもの以外にも、体を動かすアクティビティを含む企画があってもいいのではないかと。 ・職員向け手話研修を実施しているが、この取り組みは住民向けにも広げられないか。参加のハードルが高いといった心配もあるかもしれないが、興味のある方は多いのでは。 ・社会福祉協議会では、学校に出向いて子供向けに福祉教育を行っている。子どもと関わると、なかなか違った目線があつて学びになる。役場も同席してみたらどうだろうか。

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	課題・改善点に対し 令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
②地域福祉活動への参加促進	全課 教育委員会	1.住民主体の意識づくり 情報発信を中心とした啓発活動に取り組み、多くの村民が「当事者意識」を持って行動できるよう意識の醸成を図ります。	【全】 ・住民主体の地域福祉活動の実施に向けた座談会(日浦地区、東川地区)を実施し、成果として日浦地区での餅つきの実施につながった。	【全】 ・座談会等の取組の横展開を図り、他地区でも実施を目指す。また、ヘルパーの不足等逼迫している介護現場の実情について村民が知る機会を設け、住民が主体的に行動できるよう啓発を図る。防災面では、避難訓練の実施だけでなく、各地区の自主防災組織を中心とした活動も積極的に進めていくよう啓発を図る。	B 参加者の固定化が懸念されており、より多くの村民の参加(当事者であること意識づけ)に向けた周知広報を行う必要があると感じている。	A ・参加者の固定化は座談会の参加者としても実感するところ。回を追うごとに役割が固定されていた印象。30代以上特に40～50代の地域福祉活動への参加や広報は呼びかけてもらいたい。 ・餅つきを実施した際は、それまで地域活動で見かけなかった人もいたり、不参加の世帯にもできた餅を配りに行ったりと、多くの村民が関わることができたのではないかと感じる。役場評価は厳しいが、地区長にも実施した意図を理解していただけたし、住民からの評判も良かった。もっと評価しても良いのでは。 ・一斉清掃後、相名地区では自主的に2回目の清掃を行った。帰省していた学生も参加しており、影地区にも取組が広がったということもあった
	全課 教育委員会	2.既存の活動への支援 村内の既存活動団体への支援を継続・強化することにより、活動を行いたい村民を後押しします。また、世代に関係なく地域活動への積極的な参加を誘い、特に次代を担う子どもたちが馬路村に愛着を持ってもらえるような取組を推進していきます。	【全】 ・住民グループが自主的に行っているウォーキングに関し、馬路村健康づくりチャレンジの活用を声掛けし、サポートした。 ・体育会野球部やスポーツ少年団等の活動に対して補助を行い、若い世代や子どもへの帰村意識を養うことができた。 ・古式弓射式への助成など、伝統行事の継承を推進している。園児から大人まで世代を超えて参加しており、次代のリーダー育成や馬路村への愛着心が育つよう、積極的に関わっている各団体の活動を支援した。	【全】 ・伝統行事や既存の地域活動の維持及び新たな活動の実施に向けた支援を継続していく。 また、伝統行事等への子ども達の参加を促し、事業の継承とともに帰村意識を養う。	B 行事の継承の他、地域住民の持つ社会資源を活かした活動の支援に取り組んだ。	A ・新たな活動という部分で厳しい評価をしていると思うが、スポ少について、少ない人数ながらも基礎体力作りや、他地区との交流に一生懸命取り組んでいると思う。そういったところから伝統行事へ参加したり、帰ってきたりといった村とのつながりができる。
	健康福祉課 総務課	3.リーダーの養成 地域福祉活動を率先して行うリーダーの育成に取り組むことにより、新たな活動を生み出していきます。また、資格取得補助などの支援を充実させ、災害時にも住民が主体となって活動できるように取り組んでいきます。	【福祉】 ・地域福祉活動に携わる新たな人材の確保に向け、民生委員一斉改選時に現役世代への働きかけを行い、委員を引き受けていただいた。 【総務】 ・防災士養成講座等を周知し、地域福祉に取り組む住民の育成を図った。(今年度:防災士1名受講) ・自主防を通じたリーダー育成の取組は実施できなかった。	【福祉】 ・自殺予防に取り組むリーダーの養成に向けゲートキーパー養成講座の受講を予定。 福祉活動に限らず、地域活動に積極的に関わる住民の活動を支えるため、社協とも連携し座談会の取組を進める。 【総務】 ・自主防を通じた資格受講補助や防災訓練の取組を進め、住民の防災意識の涵養を図る。	C 自主防を通じ防災士や救命救急対応の研修の周知・受講補助の取組を継続する。	B ・リーダー養成にかかる講座実施、自主防の取組支援の面を見て厳しい評価をしたと思うが、地域福祉に関わる人材の世代交代は一定できつつあると思う。世代交代の取組を継続することが将来のリーダーの養成につながる。

基本目標2【誰もがつながる地域の輪(ネットワーク)づくり】

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 交流機会の推進	全課 教育委員会	<p>1.顔の見える関係づくり</p> <p>各地区の地区長や民生委員・児童委員と協力して、地域の活動を支えます。また、窓口や訪問現場での対応をする中でも地域住民との対話を重視し、お互いが信頼できる関係づくりにも取り組めます。</p>	<p>【全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策に留意しつつ、中止となった敬老会の代わりとして、職員による弁当の配布を行い、生活状況の把握につなげた。 ・あったかふれあいセンター事業や百歳体操、会議等への参加者らと対話し得た情報を、集落活動センターやなせや地区長、民生委員・児童委員等と共有し支え合える関係づくりに取り組んでいる。 ・水道検針業務等の訪問の際には声掛けを実施し、顔の見える関係づくりを進めている。また、気になる様子があれば共有し、支援につなげる取組を行っている。 	<p>【全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったかふれあいセンター事業や地域行事への参加、移住者との交流機会の確保を通じて、顔の見える関係づくりに継続して取り組む。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>地域行事や訪問現場での対応等の機会を活かした関係づくりには取り組んでいる。行事への積極的な参加や現場対応時の対話の取組を引き続き進める。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来庁したときに、顔を向けて挨拶ができています。
	地域振興課 健康福祉課	<p>2.世代間交流の促進</p> <p>村内で展開される各種行事やイベント、座談会など、村に住む様々な人をつなげる交流の機会をつくれます。地区ごとの世代間交流を積極的に進め、緊密な地域の輪を創出するとともに村内全域に展開します。</p>	<p>【振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村留学の保護者と移住コンシェルジュとの座談会を行った。(1回) ・地域起こし協力隊の活動報告会及び個別ヒアリングを実施した。(3回) ・柚子収穫のワーキングホリデー事業において、農家6名と事業参加者13名による交流会を開催した。 <p>【福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の地域福祉活動の実施に向けた座談会を実施し、成果として日浦地区での餅つきの実施につながった。 	<p>【振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の若者の代表者に移住サポーターとして協力してもらい、運動会や防災訓練といった全世代が参加する行事に若者を誘い合える環境を整備する。 <p>【福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の横展開を図り、他地区でのイベント実施を目指す。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>ワーキングホリデー参加者の移住等、世代間交流の実施による成果があった。若者の持つ地域資源(特技やスキル)を活かした世代間交流を行うとともに移住コンシェルジュを中心とした積極的な活動を継続する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングホリデー事業について、農協としては農家さんからの評判も良くぜひ今後も続けてもらいたい取組である。世代間交流と捉えていいかわからないが、ワーキングホリデー参加者が畑に来ていて、それをきっかけに周りの人も集まってきて交流機会になっている様子も見られた。

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
② 交流拠点の確保	健康福祉課	1.あったかふれあいセンター事業の充実 馬路村社会福祉協議会と連携し、既存のあったかふれあいセンター事業を充実させ、誰もが最期までいきいきと自分らしく住み続けられる地域づくりをめざします。また、集いの場が介護予防の場になっていることなど、本事業の担う役割を全世代に周知するとともに、本事業への理解の促進に努めます。	【福祉】 ・訪問による生活支援、集いの場事業を継続しているほか、課内での情報共有を図りながら、おくすり教室、健康づくり教室等事業の実施の場としても活用した。	【福祉】 ・交流センターからうまなびへの拠点の移行をスムーズに行い、より利用しやすい集いの場づくりに取り組む。また、生活支援のニーズに対応するため、地域振興課とも連携し、特定地域づくり協同組合の利用による人員確保を図る。	B 住民からの生活支援のニーズに対応するために、社会福祉協議会のマンパワーでの対応に頼っている面がある。新たな車両の導入や地域づくり協同組合の利用による人員確保等、職員の負担を軽減し事業を継続できるよう取り組む。	A ・他町村と比べても現場の職員はニーズに対応するべくよく動いていると思う。 ・診療所としても手厚く助けていただいている。 ・社協としても、役場との連携は細かくできていると思う。今後職員負担を軽減する必要がある、と意気込みがあつてBとしているのだろうと考えるが、事業充実に向けた取り組みはできていると思う。
	地域振興課 教育委員会 【令和4年度の実績評価により見直し・教育委員会を追加】	2.既存施設の活用 馬路村集会所センターうまなびや村民グラウンド等の村有施設を活用し、特に若者を中心とした交流を積極的に進めます。今まで関係のなかった者同士が交流することで、新たな事業の創出や展開に発展させます。	【振興】 ・コロナ禍でイベントの開催に制限がかかる中、馬路温泉では柚子収穫のふさとワーキングホリデー事業参加者と村内の若者による若者交流会を開催した。(2回、延べ35名)	【振興】 ・移住者と村民の交流会として、村民グラウンドや体育館でスポーツイベントを開催する。(3回予定) ・教育委員会の仮設の事務所として使用していたプレハブ小屋を、若者が仕事終わりに集まれるサードプレイスとして活用する。 【福祉】 ・体育会野球部やスポーツ少年団と連携し、スポーツ大会を開催する。また、あったかふれあいセンターの拠点移行に伴い、交流センターへの健康づくりの場の整備も行う。	C イベントの制限もあり、若者同士のつながりを積極的に作る機会や施設を活用しての事業は少なかった。交流機会の確保のため、各事業体を含めた働きかけと場の整備を進める。	B ・新たな交流を目的にしているから地域振興課のみが担当として記載されていると思うが、教育委員会も体育館等活用しているし担当に加えてはどうか。教育委員会を含めると、そこまで活用できていないこともないのでは。 ・施設の利用の仕方、申請の仕方などもっと周知すれば利用率が上がるのではないかと。体育館やうまなびなど、予約さえすればサークル等の団体でなくても気軽に使えるというのはこの会で確認するまで知らなかった。
ト③ 地域と行政のネットワークづくり・関係機関のネットワーク	全課 教育委員会	1.地域住民とのネットワークづくり 日常のあいさつ、声かけなど「あたりまえ」のことを行政職員が習慣化することから始め、地域活動やイベント等への積極的な参加を通して地域住民との信頼関係を構築するとともに、地域と行政が一体となった支えあいの形をめざします。	【全】 ・全職員であいさつ、声かけの実施に取り組んでいる。また、規模や回数の縮小はあったものの、地域活動への参加に取り組んでいる。 ・水道検針時には、挨拶や声かけ、ポストへの投函物の確認を行っている。また、使用量の大幅な変化や漏水の疑いが見受けられる場合には、再度の声かけや連絡を実施している。その中で、気になることがあれば、健康福祉課へ情報共有を行った。	【全】 ・全職員での取組を継続する。 ・令和5年度も検針時に継続した声掛け等を行い、変化等があれば関係機関と情報共有を図っていく。	A 地域行事や訪問現場での対応等の機会を活かした関係づくりには取り組んでいる。行事への積極的な参加や現場対応時の対話の取組を進める。	A ・中芸他地区と比べても、地域住民や各職場間でのネットワークは細かくできていると感じる。

基本目標3【誰もが安心できる支援の実施】 P26

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	健康福祉課	<p>1.高齢者への支援 基本計画:中芸広域連合高齢者福祉計画・介護保険事業計画</p> <p>いきいき百歳体操等の介護予防事業を通じて、高齢者が社会参加しやすい環境づくりに取り組めます。また、高齢者を地域全体で支え、最期を迎えるまで在宅で生活してもらえるよう中芸広域連合や馬路村社会福祉協議会等関係機関との連携強化に努めます。</p>	<p>【福祉】 ・支え合いネットワーク会議、民生委員児童委員協議会等と連携し、支援が必要な高齢者のニーズ把握を行った。また、食改やあったかふれあいセンターと連携し、おくすり教室、健康づくり教室、文化祭でのヘルシー弁当の販売等の事業を実施した。</p>	<p>【福祉】 ・終活セミナーを実施し、高齢者とその家族間での話し合いのきっかけづくりを行う。高齢者が、判断力が低下しても自分が望むケアや医療について希望するサービスを受けられる、最期まで住みやすい村づくりに向け取り組む。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>高齢者本人への支援や把握は実施できており取組を継続する。その他介護予防の場の内容充実、参加者層の拡大に向け取り組む。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・高齢者への取組は充実している。取組を広げる、参加を促すこともしっかりできていると思う。</p>
	健康福祉課	<p>2.障害者への支援 基本計画:中芸広域連合障害者福祉計画・介護保険事業計画</p> <p>障害の有無にかかわらずお互いの個性と人格を尊重しあいながら、安心して生活できる環境の整備を進めます。また、農福連携など新たな就労の形を模索するとともに、障害者に寄り添った伴走型の就労支援にも取り組んでいきます。</p>	<p>【福祉】 ・自立支援医療(更生医療)等の制度利用を促している。農福連携については研究を進める。 ・職員向けに障害の特性の理解に向けた手話研修を実施したほか、人権意識の涵養、及び交流機会とするため、パラスポーツ体験会を実施している。</p>	<p>【福祉】 ・引き続き、自立支援医療(更生医療)等の制度利用を促す。農福連携については、農業担当及び馬路村農協等の事業所とも連携を図りながら研究を進める。また、農福連携だけにこだわらず、障害者の雇用の場についても研究する。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>自立支援医療(更正医療)等の制度は十分活用されていると考えるが、農福連携等の障害者の雇用の創出などには至っていない。今後は新規雇用の場創出に向け、近隣市町村からの情報収集等、研究を進める。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>・農福連携について、当事者のレベルに合わせて細かく仕事を用意するというのは現状の農協の仕事の枠では難しいと思っている。農福という部分にこだわらず、障害の理解であったり雇用創出の取組を続けていくべきと考える。 ・パラスポーツの取組は広く募集して継続すべき。種目も多くあればなおよい。</p>
	健康福祉課 教育委員会	<p>3.子育て世代への支援 基本計画:馬路村子ども・子育て支援事業計画</p> <p>村の宝であり次代を担う子どものことを第一に考え、男女とも育児と仕事の両立を地域全体で支えます。また、子どもを持ちたいと考える夫婦や子育てを行う世帯のニーズ把握と気軽に相談できる体制を整え、夫婦が子育てをしたいと思う環境づくりにも努めます。</p>	<p>【福祉】 ・子育て世帯包括支援センターを整備。広報への掲載等により、子育て世帯が利用できるよう周知を図る。</p> <p>【教委】 ・小中学校における生活困窮世帯の把握と支援を進めるとともに、放課後子ども教室を実施した。</p>	<p>【福祉】 ・乳児を養育する家庭に対し、子育て支援包括支援センターで毎月おむつをプレゼントすることにより、保健師との面談およびセンターの利用増加につなげる。 ・伴走型相談支援および出産・子育て応援給付金の支給を一体的に実施することにより、妊娠期～出産期～子育て期を切れ目なく支援する環境づくりに取り組む。</p> <p>【教委】 取組を継続する。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>放課後子ども教室は子育て世帯に周知されており、利用されているが、子育て世帯包括支援センターは子育て世帯への周知が不足している状況である。今後、子育て世帯への給付事業やイベント等を通じ、周知および利用への取組を進める。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>・伴走型相談支援について、構われすぎるとしんどい、といったケースもあると思われる。相手に合わせた支援の取組を続けてもらいたい。 ・助産師等との連携を行っているところであり、相手に合わせた支援を中芸広域連合でも取り組んでいる。 ・場の整備ができたところで、今後の周知の取組に期待する。</p>

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	全課 教育委員会	4.就労の支援 自立した生活の基盤となる就労の安定について、一人ひとりの心身の状況に応じた就労や活躍の場を確保するため、福祉分野のみならず村内の幅広い産業分野の事業所等と連携するとともに、情報の共有を図ります。	【全】 ・就労支援に向けた生活の立て直しについて、村社協、診療所のほか県・奈半利社協等とも連携し情報共有や支援の方針の検討を重ね取り組んでいる。 ・山村留学生の家族の生活基盤確立のため、推進委員会として就労の相談・斡旋や事業所等と連携の上、安心・安全に継続して働く環境づくりに取り組んでいる。	【福祉】 ・一人ひとりの状況に合わせた支援の取組を継続する。様々な特性を抱えた人がいるということを踏まえ、担当の枠を超え課全体で向き合えるよう引き続き連携していく。 ・山村留学生の家族を中心に、定期的に意見交換会等を開催するなど地域コミュニティの維持・強化につなげていく。	A 社協他村内関係機関の他、奈半利社協、県社協等広域での情報共有・連携の体制は整備されている。	A ・関係機関との情報共有・連携は整っていると感じている。
	健康福祉課	5.権利擁護の推進 「馬路村成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、虐待を含めた支援を必要としている人の権利擁護や意思決定を社会全体で支援するため、法律・福祉・医療などの関係機関と連携して、権利擁護と成年後見制度の利用促進に取り組めます。	【福祉】 ・制度の利用相談に対し、障害・高齢・地域福祉の各担当間での情報共有を行い、必要な支援についての検討を行った。家庭裁判所及び法テラスと制度理解に向けた意見交換・研修を行った。	【福祉】 ・引き続き制度利用のニーズに対応できるよう、情報収集を行う。権利擁護に係る中核機関である中芸広域連合地域包括支援センターとも連携し、支援が必要なケースの早期発見、及び速やかな制度利用が行えるよう研修に取り組む。	B 制度利用に新たにつながるケースはなかったが、支援を必要とする人の財産保持・権利擁護に向け情報収集・相談体制の整備の取組を継続する。	B ・中芸広域連合としても、中核機関が立ち上がったところであり、今後連携して取り組む。
	健康福祉課	6.再犯防止活動の推進 「馬路村再犯防止推進計画」に基づき、犯罪や非行をした人が社会復帰後に地域社会で孤立しないために、国・地方公共団体・民間協力者が一丸となった「息の長い」支援の実現に取り組めます。	【福祉】 ・保護司による「社会を明るくする運動」の広報や、活動拠点である更生保護サポートセンターの運営支援を行った。また、犯罪や非行のきっかけとなる生活困窮や孤立といった状況を防ぐため、各関係機関との相談・情報共有に努めた。	【福祉】 ・「社会を明るくする運動」運動の取組を継続する。偏見の解消に向け人権意識の涵養を引き続き行うほか、他市町村との事例検討や意見交換の場への参加等、研修を行う。	B 当事者が関わるケースはなかったが、人権意識の涵養に向けた研修及び情報収集・相談体制の整備の取組を継続する。	B ・特段の意見なし。
	健康福祉課 教育委員会	7.自殺対策の推進 「馬路村自殺対策計画」に基づき、誰もが自殺に追い込まれることのない馬路村の実現をめざして、年間自殺者数0人を計画の数値目標とし、関係機関と連携を図りながら、自殺対策に取り組めます。	【福祉】 ・高齢者支援や母子支援活動、見守りや訪問を通して対策を行ってきた。自殺対策としての令和5年度のゲートキーパー養成講座実施に向け準備中。	【福祉】 ・6～7月ごろに職員数名を対象にゲートキーパー養成講座を予定。その後10月頃に関係機関等に向けて養成講座を開催予定(村→地域)	C 高齢者支援や母子支援等個別の支援をしているところであり、結果として年間自殺者数0は達成しているが、自殺対策としてのゲートキーパー養成等は実施していない。	B ・地域ネットワークの強化や情報共有・連携等、よく取組んでいる部分も多く、個別の自殺対策の研修ができていない一点を見てCとするのは厳しすぎるのでは。

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A…十分に組み立てている B…ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C…取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A…十分に組み立てている B…ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C…取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
②安心・安全の地域づくり	全課 教育委員会 (令和4年度の実績評価により見直し) 【変更前:総務課・建設課】	1.防犯や交通安全対策の推進 警察等関係機関と連携し、防犯についての広報活動を充実させるとともに、地域での声かけや見守り活動を推進していきます。また、街頭指導を中心とした交通安全に対する啓発活動やガードレール、カーブミラー、街灯などの交通安全に関連する施設整備にも積極的に取り組んでいきます。	【総務】 ・警察から特殊詐欺の情報が寄せられた際には村内放送で住民に周知し注意を促した。 春・秋・年末年始の全国交通安全期間に村内放送や広報車、街頭指導による交通安全への啓発を行った。また、9月には村内事業所と連携しカーブミラー清掃を行った。 【建設】 ・魚梁瀬地区の要望を受け、県道と村道の合流地点へカーブミラーを1基設置した。 ・影地区の要望を受け、木製防護柵を樋口谷に30m、カチヤに21mを設置し、通行の安全を図った。	【総務】 ・引き続き交通安全への啓発を行っていくが、啓発のみならず住民や交通安全指導員の意見を聞く場を設け、危険箇所等へのピンポイントでの交通安全対策も行っていく。 【建設】 ・今後も地区要望等を参考に、安全に通行できるように、必要に応じてカーブミラーや木製防護柵の設置に取り組んでいく。	A 交通事故や特殊詐欺への対策を継続する。 敬老会での防犯啓発等、集まる機会を利用した対策事業を検討する。	A ・取組はよくできていると思うが、昨今は保育所や学校等の施設を狙った犯罪も聞く。教育委員会も担当として、生徒児童への防犯啓発も行ってはどうか。
	全課 教育委員会	2.防災活動の推進 自主防災組織や団体等の自主的な防災活動をリード・支援し、地域防災力の向上を図ります。住民の防災意識の維持向上に努め、防災グッズや備蓄品、避難経路の確認など家族観での共有を促すよう啓発活動に取り組めます。また、異常気象時には早めの避難を呼びかけ、安心・安全な避難行動が可能となるよう関係機関との連携強化に取り組めます。	【全】 気象情報に注視し、早い段階で防災対策・自主避難を呼びかけた。平時には広報等により線状降水帯など気象情報について周知した。 防災訓練が延期となったため、自主防災会とともに防災用具や備蓄品などの点検を行った。	【全】 引き続き、気象台や消防、警察等各機関との連携強化を図り、的確な情報収集・発信に努める。 また、自主防や地区役員会と連携し防災訓練や避難所運営、講習を実施することで防災意識の維持向上に努める。	C 異常気象時の対応・連携は取れている。防災訓練や講習会等、実施機会の確保ができなかったため、取組を強化する。	B ・集まった訓練にこだわらず、備蓄を周知したりといった啓発活動の取組もあればいいのではと思う。
	健康福祉課	3.災害時避難行動要支援者対策の推進 災害時避難行動要支援者名簿(個別避難行動計画含む)の見直し・更新を定期的に行います。対象者の近隣住民や民生委員・児童委員、関係機関とも情報を共有するとともに、避難訓練等を通して、いざという時にも適切な対応が可能となるよう体制整備に取り組めます。	【福祉】 民生委員等には情報共有済。情報共有を行いながら見直し・更新を実施している。	【福祉】 見直し・更新、情報共有の取組を継続する。	B 作成、関係機関での共有を行っている。見直し更新を続けるほか、避難訓練等、広く活用しての取組について検討する。	B ・特段の意見なし。

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	令和4年度の実績内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和5年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A…十分に取組んでいる B…ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C…取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A…十分に取組んでいる B…ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C…取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
③多様な福祉ニーズへの対応	全課 教育委員会	1.包括的な支援体制づくり 行政や社会福祉協議会、診療所、中芸広域連合(地域包括支援センター)で構成する支えあいネットワーク会議を中心とした包括的な支援体制を強化し、すべての村民が生涯安心して暮らすことができるよう一体となって取り組んでいます。	【全】 行政・社協間で連携し支えあいネットワーク会議を継続して実施しているほか、民生委員、消防や駐在、集落活動センター等の機関と連携し不安のある行動や生活の様子について情報共有を行っている。情報を基に緊急通報システムの設置や服薬管理、介護保険サービスにつなげるといった本人の希望に沿った生活を続けるための支援に取り組んでいる。	【全】 取組を継続する。また、緊急通報装置の在庫を増やし、高齢独居世帯、及び離れて暮らす家族の不安解消に努める。住民の新たな課題や求められる要望にも対応できるよう体制づくりを行う。	A 支えあいネットワーク会議を活用し、情報共有と支援の取組を行っており、緊急時の対応等の情報も共有できている。担当課に関係なく、気になる様子を見かけたとき等の連携を取れるよう引き続き取り組む。	A ・特段の意見なし。
	健康福祉課 地域振興課	2.福祉サービスの充実 地域住民の新たな課題への対応や現行のサービスを充実させるためにも、地域おこし協力隊や特定地域づくり協同組合等を活用し、福祉に従事する人材の確保に努めます。また、馬路村社会福祉協議会との連携を強化し、求められる多様な要望にも柔軟に対応できるよう体制づくりにも取り組んでいます。	【福祉】 年度内の地域おこし協力隊、特定地域づくり協同組合の活用には至らなかった。 【振興】 各種移住サイト・フェアでの広報やワーキングホリデー参加者への案内により、地域づくり協同組合の採用内定者2名の獲得につながった。	【福祉】 あったか及び生活支援の各コーディネーターが職務に集中できる体制に向け、人材の確保に努める。特定地域づくり協同組合を利用し、送迎による支援を強化する見込。 【振興】 令和5年度から従事する特定地域づくり協同組合の職員2名のフォローアップ及び新たな職員の獲得に向けた広報等に対する支援を続けていく。	B 年度内の活用はできなかったものの、職員獲得に向けた取組を実施し、2名内定の成果が出ている。今後は活用・定着へのフォロー、新規採用の増に向け取組を継続する。	B ・対応が必要になってから福祉サービスにつなぐのではなく、未然予防の取組がよくできていると感じる。福祉サービスは充実していると思う。 ・人員の増があれば、送迎による支援の他、日常生活自立支援事業の利用促進も検討してはどうか。